

榎本 義輝 議員（自民誠和会）

老老介護・認知介護の

実情と対策は



町長 地域包括ケアシステムをより推進する

質問 約800万人といわれる団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、日本ではすでに65歳以上の高齢者が人口の29%を超え「超高齢社会」となっている。

そのため、社会保障費の負担増、医療・介護体制維持の困難化、労働力不足などの社会課題が生じており、さまざまな課題も私たちの目前に迫っている。特に65歳以上の高齢者のみの世帯の増加による「老老介護」や「認知介護」が深刻化しており、町の実情と対策について伺う。

町長 老老介護や認知介護については、緊急対策を講ずる必要

要がある問題であり、さまざまな手段で町の実情を国に伝えていく。町においても介護サービスの確保に留まらず、医療・介護、介護予防、住まいおよび自立した日常生活の支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムをより推進する。在宅介護を支えている家族などが、公的サービスや社会資源を利用しながら、安心して介護を継続できる地域づくりを進めていく。



老老介護のイメージ

こんな質問もありました

町主催のリモート会議にルールや規程を

町長 委員会の規模や状況も異なるため、一律のルールづくりは難しい。

大坪 国広 議員（日本共産党）

町・都市公園のトイレ管理について再度問う



町長 地域との協働を主体に推進している

質問 町には、大・小合わせて45力所の都市公園があり、21力所の多目的トイレが設置されている。特に、利用者の多い公園などで、ほこりや床面の汚れを目にし、住民からも清掃

作業の改善を求める声が多数寄せられている。そこで、次の2点について所見を伺う。

問① トイレの維持管理や清掃作業の回数など、現状をどのようにに捉えているか。

町長 公園管理は、町内会やシルバー人材センターなどに業務を依頼している。トイレ清掃は、利用状況などを考慮し、公園ごとに回数を設定し実施している。地域住民の協力は、公園や施設への愛着や責任感、住民意識の向上にもつながる。



下師岡公園に設置されているトイレ

森 巨 議員（自民誠和会）

「人」産業「魅力づくり」に積極的な投資をすべきでは



町長 7年度から人材確保についても支援している

質問 町の活性化に必要なとされる「人」

「産業」「魅力づくり」について積極的な投資による底上げが必要と考え、次の3点について所見を伺う。

問① 社会的資源としての人材の発掘と育成、活動の場をどう確保していくか。

町長 町内には、私たちの知らないところで高い技術や技能を有する方々が活躍している。こういう人材を掘り起こし、地域活動へのルートを確立できるかが、今後のまちづくりには重要である。さまざまなチャンネルを使って引き続き情報収集にあたりたい。



不登校の子どもたちが参加した農業体験

質問 学校における性教育の拡充を求める声が高まっており、子どもが健康で幸福な生活を送るために包括的性教育が重要視されている。これは、性に関する知識

下野 義子 議員（公明党）

包括的性教育の推進と「ユースクリニック」の開設を



教育長 開設は難しい。引き続き情報収集と研究を進めていく

だけでなく、人権、性の多様性、ジェンダー平等、人間関係など幅広い内容を包括的に学ぶ教育で、わが町でも積極的に推進すべきと考える。併せて、若者が友達や親には相談しづらい、性や心の悩みなどを気軽に相談できる「ユースクリニック」を開設すべきと考えるが、所見を伺う。

教育長 都の性教育の手引の基本的な考え方を踏まえ、教育活動全体を通じた取り組みを推進している。小学校では、性を社会的側面で捉え、正しい情報の選択を行えるようにしている。中学校では、性などのように向き合うか考え、誤った情報で自分や他人を傷つけないよう、行動の選択について考える。個別の相談は、学校での相談しやすい雰囲気づくりに努め、公認心理士などが、相談を聞く体制をとっている。

現段階ではユースクリニックの開設は難しい。子どもや若者の性の悩みへの有効な対策について、引き続き情報収集と研究を進めていく。



ユースクリニックのイメージ